慶應義塾大学出版会
2024年10月新刊のご案内

別刷り注文書

※今月のみ受注の書目です。

貨幣史・金融史／日本近世史

徳川期の銭貨流通
貨幣経済を生きた人々

（2024年10月中旬刊行予定）

藤井典子（慶應義塾大学文学部古文書室研究員、早稲田大学非常勤講師、聖心女子大学非常勤講師）[著]

A5判上製／352頁　税込予価5,500円　ISBN978-4-7664-2994-7　C3033

☞ココに注目！

- **徳川期の銭貨流通の実態はどのようなものだったのか。**
- **関東での銭座経営の実態と、人々の暮らしとの関わりを明らかにする。**

銭貨発行の歴史や実物銭貨の変遷は、公の記録としてはほとんど残されていない。東日本に分析の焦点を当て、銭貨と人々の暮らしとのかかわりや銭貨流通の実態を明らかにする。近世日本貨幣史に新しい視点をもたらす1冊。

対象　（日本の貨幣史・近世史を専攻する）研究者

類書　岩橋勝『近世貨幣と経済発展』（名古屋大学出版会）

【営業部からのおすすめポイント】

近世以降、自国発行の貨幣の普及が進んだのにもかかわらず、銭貨の発行や流通にまつわる公式記録はほとんど残されていません。農村部の庄屋の台帳や街道の宿屋の宿帳などから当時の金銭のやりとりを探り当て、数値分析を試みた結果、江戸期にはすでにほぼすべての民が現物の小銭を日常的に使っていたことがわかりました。近世の貨幣史研究の大半は関西圏の諸藩における貨幣流通が主流となるなか、関東圏の史料から考察を導き出すという功績を担った画期的な1冊です。ぜひご注目ください。（福本）

☞目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載！　ぜひご確認ください！

【目次】

第 1 章　徳川期の貨幣制度と銭貨

徳川期銭貨の特徴／銭貨の歴史から見た徳川期の特徴／徳川幕府の「三貨制度」／銭貨研究の歩み

第 2 章　田沼期の銭貨流通と金銭相場

銭貨政策の転換点――公定金銭相場との関係から／江戸および周辺農村部の金銭相場／
田沼期の銭貨にみる政治的事情

第 3 章　銭座運営体制変更にみる銭貨の鋳造・流通管理

金座鋳銭定座における金座人の役割／金座鋳銭定座における銭貨流通管理／
銅の確保における御用地金問屋の役割

第 4 章　田沼期水戸鋳銭座の経営――江戸市場との関係を中心に

水戸鋳銭座の経営組織／鋳銭座職人の製造工程／水戸藩鋳銭にみる職人の雇用事情

第 5 章　年貢貢納にみる銭貨の使われ方――武蔵国児玉郡傍示堂村の事例

年貢貢納史料に記載される貨幣単位／徳川後期の年貢史料における貨幣単位の変化／
幕末維新期の年貢史料にみる「両から円へ」の移行過程

第 6 章　　幕末期の銭貨流通

幕末期の銭貨をめぐる諸問題／幕末期貨幣在高の推計と観察／幕府が払い出した金銀銭貨の使途／
小菅銭座における鉄一文銭の鋳造と払出

第 7 章　　明治期初等教育史料にみる「貨幣」の学び

文部省編纂『小學讀本』による貨幣教育／『小學讀本』における新旧貨幣に関する説明／
『明治七年八月改正小學讀本』にみる貨幣政策上の課題

終　章　　徳川期銭貨とともに「貨幣経済を生きた人々」

あとがき
初出一覧
参考文献
参照史料一覧

ご注文は FAX で！　03 ー 3451 ー 3124

新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			藤井典子 著 徳川期の銭貨流通 ー貨幣経済を生きた人々 ISBN978-4-7664-2994-7　C3033	5,500 円	★★

★1つで「500 部」を表します

関連既刊（ぜひ併せてご注文ください！）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	鎮目雅人 編 信用貨幣の生成と展開 ー近世～現代の歴史実証 ISBN978-4-7664-2693-9　C3033	定価(税込) 7,150 円
			発行所：慶應義塾大学出版会	